

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200350		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム浜松天竜(ユニット1)		
所在地	静岡県浜松市天竜区山東4360-1		
自己評価作成日	令和2年9月11日	評価結果市町村受理日	令和2年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2297200350-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から9年を迎え、ご利用者も新しい顔ぶれに変わり、また新しいユニット作りを心がけています。今まで中々自発的にお手伝いをして頂けないご利用者様に「できること」をお願いしています。1Fは歌や、体操など楽しく身体を動かすことを重点に、日課に体操や、歌の時間を組み込み、みんなで楽しむ時間を大切にしています。ここの生活では、わすれてしまっていることも多いため、無理をさせない範囲で、話しを聞きながら、職員と一緒に勧めていくよう支援しています。新型コロナウイルスの感染予防の為、ご家族の面会制限や、外部ボランティアの受け入れ自粛、毎月行っていた外出などすべてに制限がかかっていますので、ホーム内で工夫して、中庭の散歩など取り入れ、ご利用者の生活に合わせた対応を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

10代2名、20代2名、30代5名、あとは50～60代と中間の世代はいないものの、フレッシュな空気が充満する事業所です。来期も含め此処数年定期採用が叶い、またベテランも我が道を行く感のある若年者に寛容に接するとともに、管理者が間に入ってバランスが保たれ、チームワークが形成されています。法人が東海四県定員20名で募集したタクティールケアの講習会には当事業所から10代2名、60代2名が参加したとのエピソードからも世代を超えた仲間意識があること、職員数の潤沢さ、業務への意欲が現れています。その姿勢は地域や家族からも認められ、認知共用型指定通所介護事業には「空室待ち」の利用者が通っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に唱和しながら、全体会議などにて説明を加えている。	法人から「理念BOOK」の配付が一人1冊ずつあり、また制作前には職員アンケートが施され、CIや認知症について改めて考える機会となっています。全員で読み、「理念に基づきどのように取り組むのか」を見つめ、実現に向けこの一年の目標を作成することとしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の防災訓練や、お祭り、社務所の掃除など地域から声をかけて頂ける。防災訓練では地域の方が、愛の家のプラカードを作ってくださるなど、地域交流には力を入れている。	自治会長が毎年交代する地域であることから、一年ごと関係を築いて「屋台も立ち寄ってもらえる」「自治会長の確かな引継ぎ(交代)」に至っています。コロナ禍で立ち話なもの、先日も自治会長と避難場所が変わったことなどについて話し合っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通じて地域に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出たご意見などは、全体会議などにて社内で共有し、改善点などは改善させていただいている。	常には自治会長、民生・児童委員、地区社協、3～6家族と10余名で賑わう運営推進会議ですが、3月と5月は休止、7月は何とか小人数で集まり、再び9月を休止としています。休止については、「活動内容を書面化のうえ提出でよい」と浜松市に回答を得ています。	浜松市から書面送信は「FAXでいいよ」と言われてはいますが、条例下の制度であることから、書面開催であっても行政出席とするための受領印や、活動について意見をもらっていると、なおよいと思います(7月の書面は受領印あり)
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などの出席はもちろんのこと、疑問などは担当者に相談させていただく。	認知共用型指定通所介護事業に取組む(6名定員、現在5名)ことから対応に迷うことがあり、「コロナ禍だが受入れていいか」「朝早く迎えに来てほしい家族の要望に応じてデイサービスの営業時間を越えて受けていいか」等、随時問い合わせることがあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について全体会議で、研修を行う、常にその対応が適切かどうか、職員同士で声をかけあい身体拘束がおこらないよう注意し合っている。	身体拘束廃止未実地減算について適切に運用出来ています。研修では「(被害を受ける利用者のことを考えると)胸が痛んだ」といった感想も見られ、また法人が敷く「虐待・不適切ケアチェックシート」は代表職員がおこなうことでよいとなっているところ、全員がおこなう真摯さです。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修会を多く持ち、虐待の知識を深め、社内での虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修会を行いながらその職員のレベルに合わせて勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、書面により説明し、ご理解、ご協力をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や、ご要望についてケアプランの説明時や、面会時にお聞きしてできる限り反映させている。	事業所通信「キセキレイ」を毎月家族に届け、面会や運営推進会議のほか、家族の忙しさに配慮したSNSでの送信などで近況報告をおこなうとともに、「窓口は管理者」として情報を一元化しています。また苦言には丁寧に向き合うことでより相互理解を深めるに至っています。	コロナ禍で面会が思うようにならないため、家族に届ける写真や便りを手厚くしていくことを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、全体会議などの開催時間を主婦でも出やすい時間に変更し、なるべくたくさん意見が出てもらえるよう工夫している。ユニット単位で、実践できるよう支援している。	「休憩時間は絶対とるように」と、職員には管理者から幾度となく言い伝えていますが、「1時間もいらない」「利用者と話していたい」と要望する人もいて、「入浴介助の後は疲れるからその時足りない分を～」といった方策を以て、意見を尊重しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社のキャリアパスの充実と共に個人の面談を増やし、この状態把握に努めて、アドバイスをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に多く話しかけるよう努め、時間内の各フロアへの巡回時などを活用したり、北区する職員への声掛けを多くしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業者、ケアマネなどと職員が直接話せる機会を設け、モニタリング時など活用している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時は、ご本人やご家族との話し合いを重ね不安の払拭を図ると共に、何回か様子をお電話させていただくなどの対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階で、ご利用者の状況把握に努め、ご家族の不安、ご本人の不安の払拭に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に問題を整理し、必要な支援について提案しながら、適切なサービスをご利用できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は寄り添う介護を念頭に置き対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪時や電話での対応時にご家族の心情に配慮し、予利用関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時ご本人の馴染みの方や場所などをお聞きしておき、ご家族の了解を得たうえで、ご本人をお連れするなどの対応をしている。	大好きな掃除、編み物と、これまでの暮らしの中にあつたものが継続できるよう支援しています。コロナ禍での面会は「会いたい」気持ちに応え、「手洗い」「消毒」「聞き取り」のうえ日中は玄関先で、夕方以降は玄関の中で家族との逢瀬を続けることができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者お一人お一人の状態把握に努め、できること、苦手なことなどを知ったうえで、場所を設定し、孤立しないよう配慮しながら支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GH退居後もデイサービスをご利用いただけたり、ご家族様からの書類の書き方や、介護保険の質問、他の施設の探し方など相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に寄り添い、ご希望について常にヒントを得ようと努力している。	朝忙しそうに立ち働く職員のためにお茶を入れる利用者もあり、本人のしたいことをしてもらっています。また、管理者が「夜勤業務16時間シート」を作成、一人ひとりの利用者への留意点がA4版1枚に収められたもので、夜勤者の心強いパートナーとなっています。	入居前の施設や居宅の介護支援専門員、家族がふとこぼした話等々、表にでない情報がたくさんあるようですので、文章に起こしていく工夫を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族などにお聞きしながら、状態把握に努めるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員がいろいろ試しながら、その方の状況把握に努め記録や情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを通じて相談し、ご本人の思いを優先しながら介護計画を立てている。	意見を書いたカンファレンスシートを集めて仮プランを作成し、それをたたき台にして意見交換を重ねて完成させる方法に今月から切り替えており、「職員がじっくり考える」ことができるよう向上しています。また、OT(生活機能向上加算)と家族には電話で確認しています。	3ヶ月に1度とこまめな見直しをおこなうため難しいかも知れませんが、サービス担当者会議に家族が出席できると、なお良いと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各種記録を通して、情報共有して対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いろいろなケースに応じることができるよう常にケアの方法などを模索し挑戦している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とのつながりの幅を広げるため、模索し、常に楽しめるホームであるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は、各種記録を持ってご利用者、ご家族と連絡を取りながら、対応している。	2名が内科を含む精神科へ、他16名は協力医に変更しています。月1回の定期受診には週3日勤務の看護師または管理者が通院介助をおこない、医師に適切な情報をあげています。また医師からはコロナ対応として、代理受診での投薬などの配慮を得ています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護介護とも、情報把握に努め、連携し、ご利用者のより良い生活の為、努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、ご家族のご意向に沿いながら、ムンテラ等に積極的に参加し病院との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の求めに応じてご相談をお受けして、適切なご提案をさせて頂いている。	地域の連携医療が充実している点は安心です。協力医には「機械呼吸となったら看取り」との方針があるため、看取りという名の下での取組みはなく、また重度化では「その時の体制が対応できるか」ということも懸念されることは、家族に理解されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応など社内研修会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法令に基づき避難訓練を行っている。	4月は水消火器を使い、また8月は(コロナ禍で)消防署の立ち合いは断られたものの火災と水害想定で実施しています。避難訓練では「2階から下りる(3名)」「2階に上がる(7名)」でADLの状況把握できたとの収穫もありました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼などで、常に声掛けや、個人情報などの扱いについて配慮している。	「Aがいい?」「BとCは～」といった問いかけをすることを旨とし、ドリンクタイムには紅茶、珈琲、ジュース、日本茶、ココア等多品種の飲料が揃えられています。「恒例のいちご狩りもいいけど、みかん～」の声に応じて、協力くださる農家とも懇意な関係を結んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望される生活の実現に向けて配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者お一人お一人に合った時間について考え、配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族にもご協力頂きながら、季節や、好みにあった服装などができるよう努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に盛り付けや後片付けができるよう支援している。	本社の管理栄養士がカロリー計算した献立表に基づき、職員が地場産品を取り込んで調理しています。パンケーキづくりでは「混ぜる」「流し込み」「かえし」も各々できる人はおこない、食器洗いや副食の盛り付けにも活躍、マイエプロンを持つ利用者も少なくありません。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常態に応じて量や、塩分などが加減できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日に3回の口腔ケアについて声掛けしたり、物品の準備をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を付けることにより、把握している。	平均介護度は2.9でも大半が認知症についており、立位も保持でき独歩でトイレに向かう人がほとんどで、車いす利用の人も自身の腕の力で移譲しています。術後入所の人は紙から布パンに向上、意欲も見られたため夜間はPTイレを導入して、自身で全て出来ています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖などを活用し、日々の排泄コントロールに役立っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いせず、午前、午後と入浴したい時間を尊重し、次の日と入れ替えるなどしながら対応している。	入浴は週2回と決めています。時間帯の要望には応えており、「暗くなってから入りたい」「寝る前に～」を実現させ、最近では夜中の2時での「入りたい」にも対応しています。1日3名でゆったり湯に浸かり、お風呂がない日でも「毎日下着を替え」て清潔に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できる環境について考え、環境整備を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報ファイルを作り、それに基づき、間違いなく、服薬できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者ができることをなるべく探し、できる工夫をし、生き活きた生活となるよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべくご希望に添うことができるよう支援している。	従来通りの外出はできませんが、小國神社に紅葉を訪ねて「少し早かった」とのニアミスも微笑ましく、できるだけ季節を感じてもらえることを意識しており、コロナが終息したら「海が見たい」との利用者の想いを叶えることを楽しみにしています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人のご希望に添い所持について話し合うなど努力はしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて、電話の取次ぎなど行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った絵を皆さんに塗って頂いたりして家庭のリビングを目指している。	掃除は夜勤帯のみでしたが、現在は10時と1時に次亜塩素酸水での消毒を加え、換気も常にどこかをオープンにするよう配しています。外に出る機会が減り、工作物が増えて置き場所に頭を悩ませていますが、一方でハロウィンパーティーの準備は着々と進んでいました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者が思い思いの場所で、くつろげるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のご希望や、ご家族に自分の部屋ということを考えてお持ち込み品の選択を頂いている。	タタミに布団を敷く形からベッドに替えたり、センサーが増えています。テレビは「部屋で見ないから外す」人もいますが、冷蔵庫の持ち込みや、大工職の義理の弟さんが作ってくれたという桐の匂いもかぐわしい手作りベッドがある居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人個人の安全な暮らしを考え、ご本人の能力に応じて自立した生活をおくることができるよう努力している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200350		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム浜松天竜(ユニット2)		
所在地	静岡県浜松市天竜区山東4360-1		
自己評価作成日	令和2年9月11日	評価結果市町村受理日	令和2年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2297200350-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2Fのユニットは、毎日の活動や、壁面飾りなど季節に合ったものを常に考え、ご利用者と共同で作りに上げている。下準備に余念がなく、職員同士で、良いものを見つけるとスマホで写真を撮り、そこからホームのご利用者にとどの部分を作ってもらうか考え、工夫している。塗り絵だけでなく、計算プリントや、習字などその方お一人お一人に合った活動を準備し、対応している。職員同士も仲が良く、常に話し合い、笑顔が絶えずご利用者と一緒に生活を楽しく送っている感がある。地域の防災訓練など、参加を聴いたご家族様が、見学に来てくれて一緒にご参加頂けるなどもあり、まさにアットホームの実践をしている。職員一人一人が向上心を持ち、相手のことを考えていることは、全社の理念にも実践している姿のものである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

10代2名、20代2名、30代5名、あとは50～60代と中間の世代はいないものの、フレッシュな空気が充満する事業所です。来期も含め此処数年定期採用が叶い、またベテランも我が道を行く感のある若年者に寛容に接するとともに、管理者が間に入ってバランスが保たれ、チームワークが形成されています。法人が東海四県定員20名で募集したタクティールケアの講習会には当事業所から10代2名、60代2名が参加したとのエピソードからも世代を超えた仲間意識があること、職員数の潤沢さ、業務への意欲が現れています。その姿勢は地域や家族からも認められ、認知共用型指定通所介護事業には「空室待ち」の利用者が通っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に唱和しながら、全体会議などにて説明を加えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練や、お祭り、社務所の掃除など地域から声をかけて頂ける。防災訓練では地域の方が、愛の家のプラカードを作ってくださいなど、地域交流には力を入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通じて地域に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出たご意見などは、全体会議などにて社内で共有し、改善点などは改善させていただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などの出席はもちろんのこと、疑問などは担当者に相談させていただく。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について全体会議で、研修を行い、常にその対応が適切かどうか、職員同士で声をかけあい身体拘束がおこらないよう注意合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修会を多く持ち、虐待の知識を深め、社内での虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修会を行いながらその職員のレベルに合わせて勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、書面により説明し、ご理解、ご協力をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や、ご要望についてケアプランの説明時や、面会時にお聞きしてできる限り反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、全体会議などの開催時間を主婦でも出やすい時間に変更し、なるべくたくさん意見が出してもらえるよう工夫している。ユニット単位で、実践できるよう支援している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社のキャリアパスの充実と共に個人の面談を増やし、この状態把握に努めて、アドバイスをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に多く話しかけるよう努め、時間内の各フロアへの巡回時などを活用したり、北区する職員への声掛けを多くしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業者、ケアマネなどと職員が直接話せる機会を設け、モニタリング時など活用している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時は、ご本人やご家族との話し合いを重ね不安の払拭を図ると共に、何回か様子をお電話させていただくなどの対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階で、ご利用者の状況把握に努め、ご家族の不安、ご本人の不安の払拭に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に問題を整理し、必要な支援について提案しながら、適切なサービスをご利用できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は寄り添う介護を念頭に置き対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪時や電話での対応時にご家族の心情に配慮し、予利用関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時ご本人の馴染みの方や場所などをお聞きしておき、ご家族の了解を得たうえで、ご本人をお連れするなどの対応をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者お一人お一人の状態把握に努め、できること、苦手なことなどを知ったうえで、場所を設定し、孤立しないよう配慮しながら支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GH退居後でもデイサービスをご利用いただけたり、ご家族様からの書類の書き方や、介護保険の質問、他の施設の探し方など相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に寄り添い、ご希望について常にヒントを得ようと努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族などにお聞きしながら、状態把握に努めるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員がいろいろ試しながら、その方の状況把握に努め記録や情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを通じて相談し、ご本人の思いを優先しながら介護計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各種記録を通して、情報共有して対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いろいろなケースに応じることができるよう常にケアの方法などを模索し挑戦している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とのつながりの幅を広げるため、模索し、常に楽しめるホームであるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は、各種記録を持ってご利用者、ご家族と連絡を取りながら、対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護介護とも、情報把握に努め、連携し、ご利用者のより良い生活の為、努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、ご家族のご意向に沿いながら、ムンテラ等に積極的に参加し病院との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の求めに応じてご相談をお受けして、適切なご提案をさせて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応など社内研修会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法令に基づき避難訓練を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼などで、常に声掛けや、個人情報などの扱いについて配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望される生活の実現に向けて配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者お一人お一人に合った時間について考え、配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族にもご協力頂きながら、季節や、好みにあった服装などができるよう努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に盛り付けや後片付けができるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常態に応じて量や、塩分などが加減できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日に3回の口腔ケアについて声掛けしたり、物品の準備をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を付けることにより、把握している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖などを活用し、日々の排泄コントロールに役立てている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いせず、午前、午後と入浴したい時間を尊重し、次の日と入れ替えるなどしながら対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できる環境について考え、環境整備を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報ファイルを作り、それに基づき、間違いなく、服薬できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者ができることをなるべく探し、できる工夫をし、生き生きとした生活となるよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべくご希望に添うことができるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人のご希望に添い所持について話し合うなど努力はしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて、電話の取次ぎなど行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った絵を皆さんに塗って頂いたりして家庭のリビングを目指している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者が思い思いの場所で、くつろげるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のご希望や、ご家族に自分の部屋ということを考えてお持ち込み品の選択を頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人個人の安全な暮らしを考え、ご本人の能力に応じて自立した生活をおくることができるよう努力している。		